

2014年3月期 (2013年4月～2014年3月)

決算説明会



淡路工場
2013年4月竣工



 東洋合成工業株式会社

2014年5月16日 (金)

1 . 2014年3月期 決算概要

2014年3月期 決算のポイント

売上高は前期比+5.7%、通期計画進捗率100.3%

感光材：販売数量増加に加え、円安定着化もあり、増収

化成品：香料部門は増収、ロジスティック部門は好調に推移、グリーンケミカル部門は微減

経常利益は△455百万円（前期比590百万円減少）

感光材：感光材部門は利益が上昇。エネルギーは現像液設備の減損を計上（特別損失）

化成品：香料部門、グリーンケミカル部門ともに新工場の固定費負担増加が利益を圧迫

ロジスティック部門は好調に推移

	2013年3月期 実績	2014年3月期 実績	2014年3月期 業績予想※	前期比	計画比
売上高	14,141	14,944	14,900	+802	+44
営業利益	271	△ 444	△ 670	△ 715	+226
経常利益	135	△ 455	△ 570	△ 590	+115
当期純利益	43	△ 673	△ 590	△ 716	△ 83

(百万円)

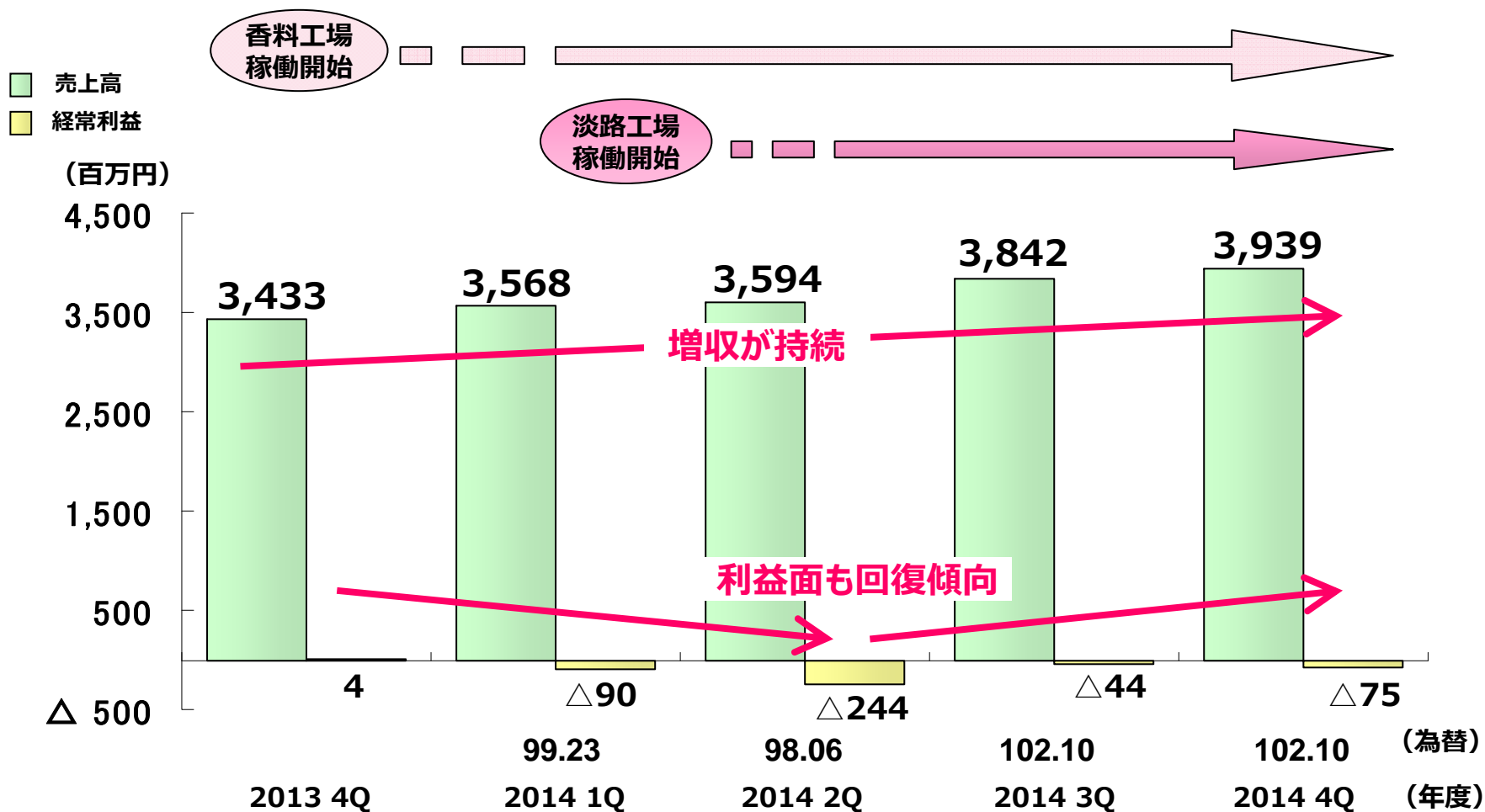
※2013年11月8日 修正予想

売上高・営業利益・経常利益・当期純利益

売上高：堅調に推移し、上昇基調

経常利益：感光材は増益基調

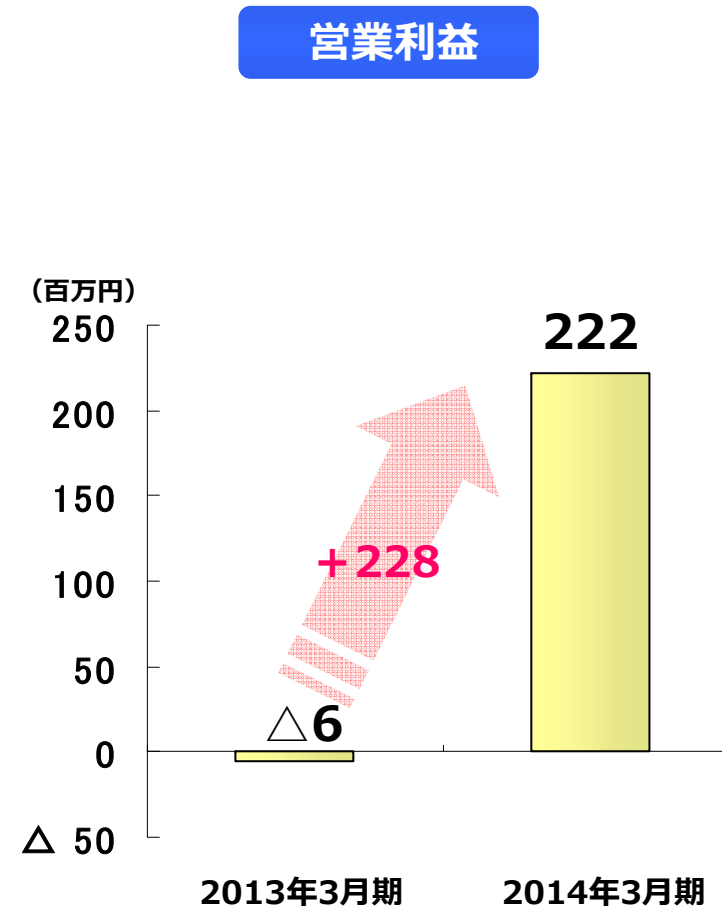
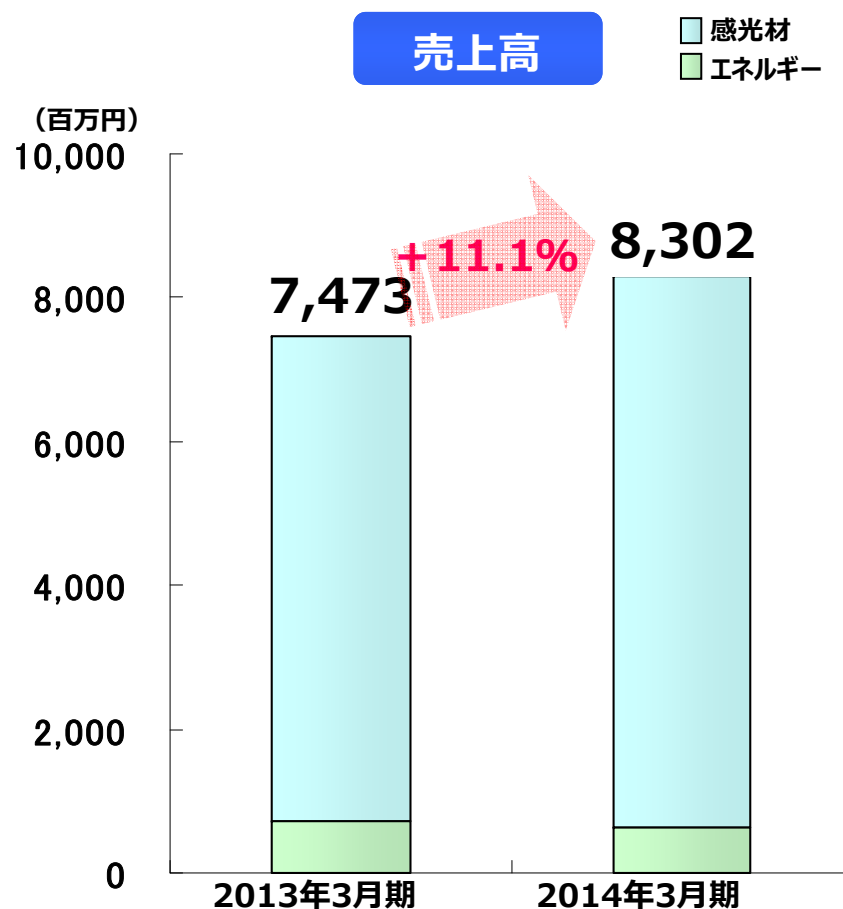
化成品は新工場の固定費負担により赤字ながら、赤字幅縮小の方向



感光性材料事業 売上高・営業利益

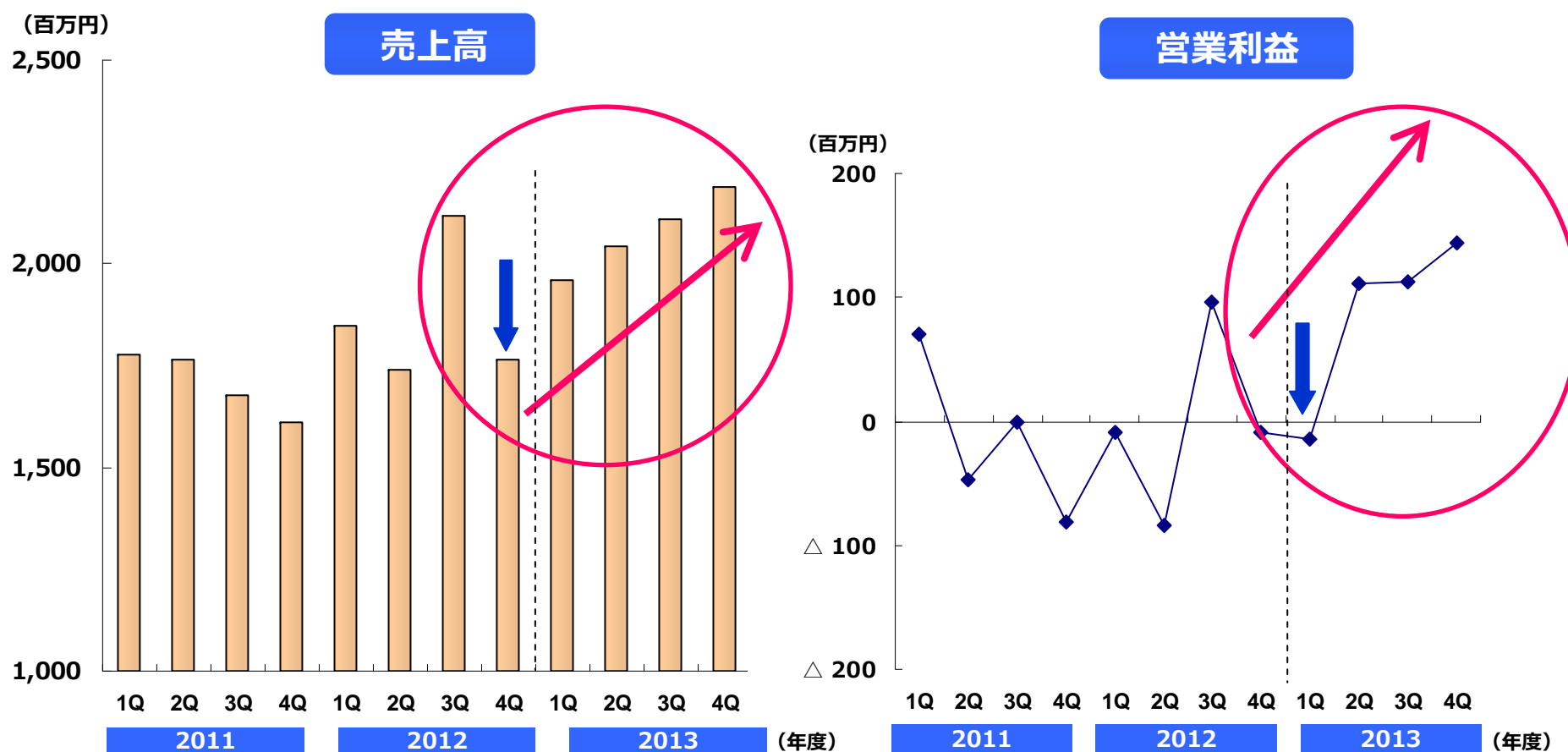
売上高：前期比11.1%増、営業利益：前期比+228百万円

- 感光材部門は、液晶向け・半導体向け共に好調



感光性材料事業全体の状況

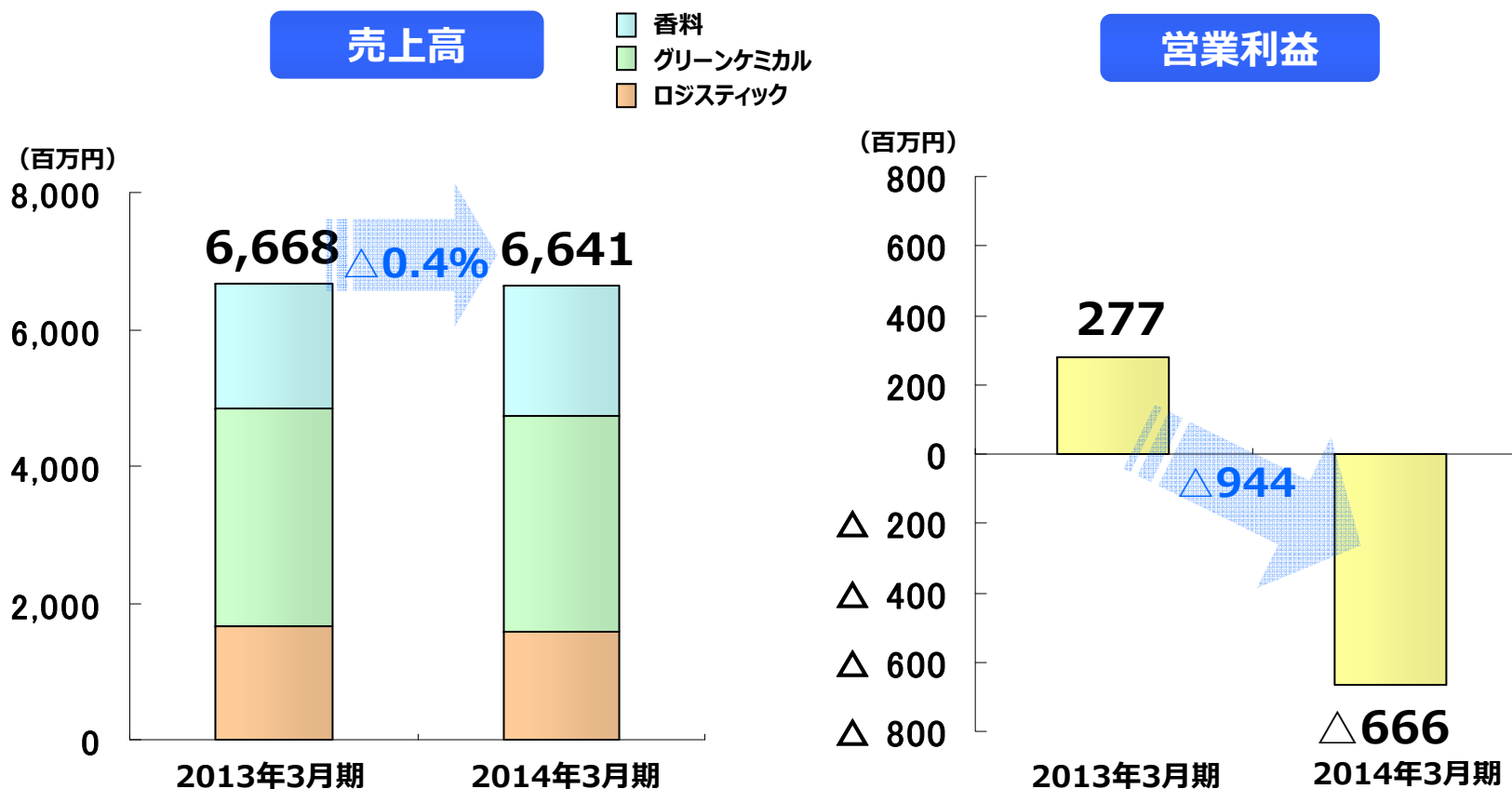
- 半導体需要の拡大、FPDパネル市場の拡大に伴い、
2013.3期4Qをボトムに売上高・営業利益ともに回復



化成品事業 売上高・営業利益

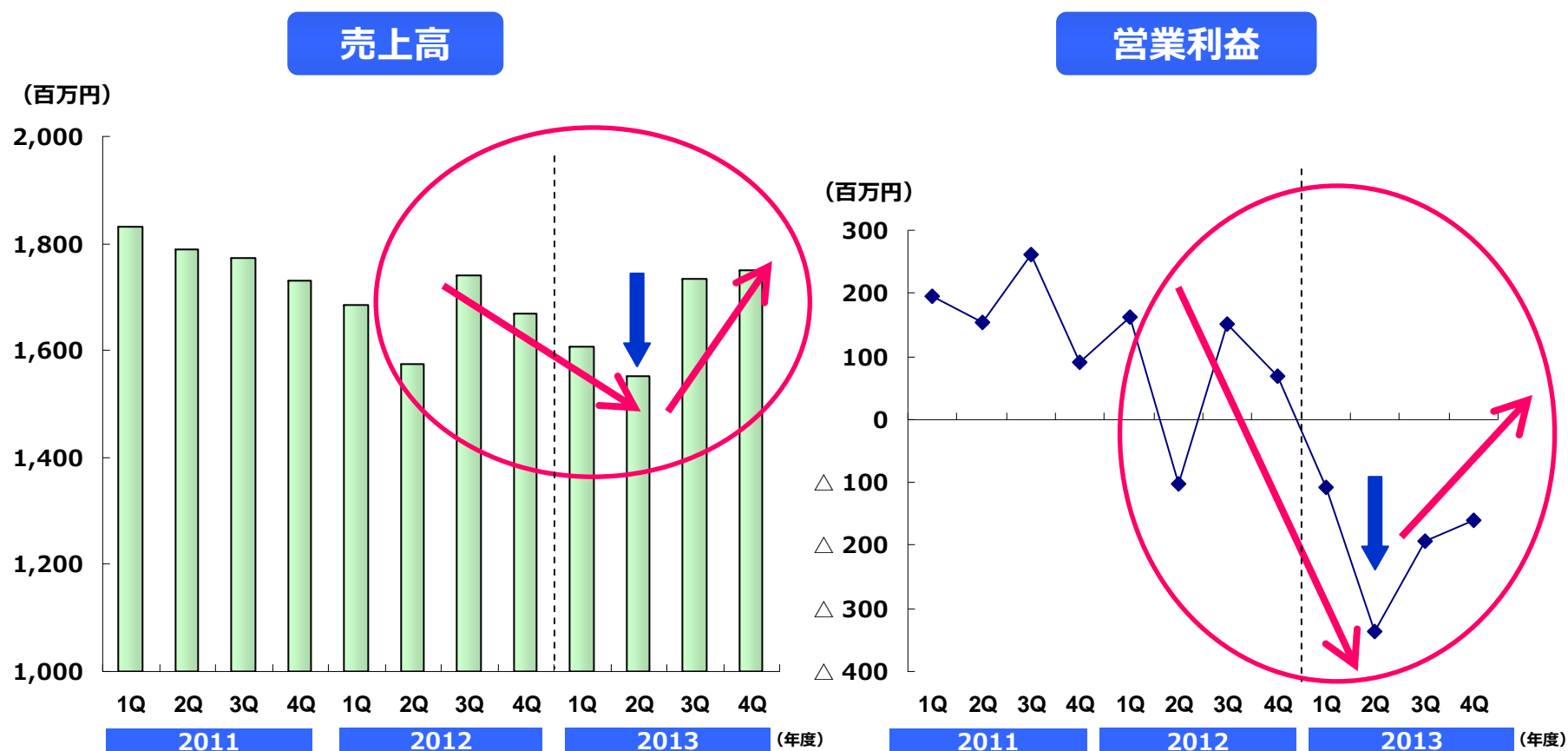
売上高：前期比0.4%減。営業赤字計上（前期比△944百万円）。

- 香料部門は、赤字ながら、受注回復に従い、香料工場の稼働率が向上
- グリーンケミカル部門は、国内半導体向け溶剤需要が回復傾向。淡路工場の固定負担増加
- ロジスティック部門は、法定タンク検査により、売上は微減するも、タンク契約率を高水準に維持し、利益は堅調に推移



化成品事業全体の状況

- 2013年度2Qをボトムに売上が拡大
- 利益面においては、香料工場（2012年度下期）・淡路工場（2013年度上期）の竣工に伴う固定費増により急速に収益が悪化したものの、2013年度2Qをボトムに足元は回復傾向



連結損益計算書（要約）

- 売上原価：新工場建設により、労務費・減価償却費が約6億円の増加
- 営業外収益：為替差益（+93百万円）、技術指導料（+13百万円）
- 特別損失：エネルギー部門の現像液設備を減損（△131百万円）

科目 (百万円)	2013年3月期	2014年3月期	対前期比	
			増減額	増減率
売上高	14,141	14,944	+802	+5.7%
売上原価	11,397	12,873	+1,475	+12.9%
売上総利益	2,743	2,070	△672	△24.5%
販売管理費	2,472	2,514	+42	+1.7%
営業利益	271	△444	△715	—
営業外収益	107	244	+136	+126.2%
営業外費用	244	255	+11	+4.5%
経常利益	135	△455	△590	—
特別利益	—	13	+13	—
特別損失	32	216	+184	+564.0%
税引前当期純利益	103	△658	△761	—
法人税等・少数株主持分利益	59	14	△45	△75.7%
当期純利益	43	△673	△716	—

連結貸借対照表（要約）

- 固定資産：大型設備投資は2014.3期までに完了、減価償却の進行により固定資産△6.6億円
- 負債：有利子負債+9億円（淡路工場向け借入金の影響）、その他は設備未払金の減少影響
期末借入金178億円、設備投資は一巡、有利子負債は今後減少

科目 (百万円)	2013年 3月期末	2014年 3月期末	増減	科目	2013年 3月期末	2014年 3月期末	増減
流動資産	9,824	9,626	△198	負債	23,197	22,992	△205
現金預金	1,669	1,450	△218	買掛債務	2,039	1,861	△177
売上債権	2,268	2,461	+192	有利子負債	16,942	17,841	+899
棚卸資産	5,470	5,469	-	その他	4,216	3,288	△927
その他	415	243	△171				
固定資産	19,943	19,233	△710	純資産	6,570	5,867	△702
有形固定資産	19,013	18,352	△661	株主資本	6,555	5,858	△696
無形固定資産	312	332	+20	評価・換算差額等	14	8	△5
投資・その他	617	548	△68	少数株主持分	-	-	-
資産合計	29,768	28,859	△909	負債・純資産合計	29,768	28,859	△909

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

- 営業CF： 香料・淡路工場への先行投資により減価償却費が増加、売上増により運転資金が増加
前年比営業CFは減少、来期は増加の見込み
- 投資CF： 淡路工場設備の支払いは完了。来年度の投資CFは6.3億円の計画

科目 (百万円)	2013年3月期	2014年3月期	増減
営業活動によるCF・・・ (A)	1,666	1,059	△ 606
税金等調整前純損失	103	△ 658	△ 761
減価償却費	1,435	1,791	+ 356
売上債権の増減額 (△は増加)	305	△ 192	△ 498
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△ 291	1	+ 292
仕入債務の増減額 (△は減少)	107	△ 177	△ 285
その他	6	295	+ 288
投資活動によるCF・・・ (B)	△ 5,327	△ 2,000	+ 3,327
フリー・キャッシュフロー (A+B)	△ 3,661	△ 940	+ 2,720
財務活動によるCF	3,518	818	△ 2,700
現金及び現金同等物の増減 (△は減少)	△ 129	△ 118	+ 10
現金及び現金同等物の期末残高	1,169	1,050	△ 118

2. 2015年3月期 通期見通し

2015年3月期 業績予想

- 売上は、通期155億円（前期比+5.5億円）
- 円安定着化による原燃料価格の上昇に伴い、経常利益△2.7億円

(百万円)

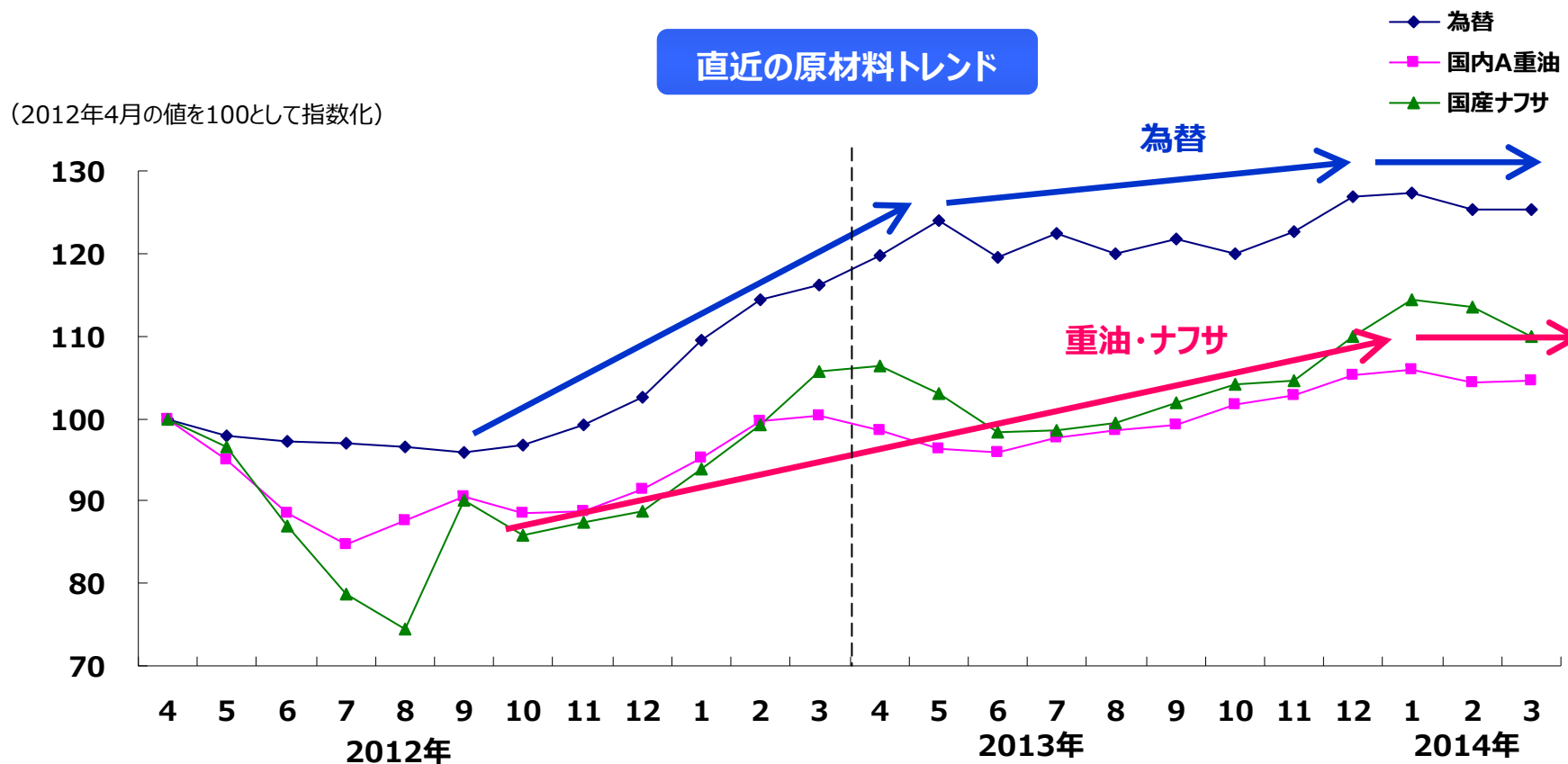
	2015年3月期 上半期予想	2015年3月期 下半期予想	2015年3月期 通期予想	2014年3月期 実績	前期比
売上高	7,750	7,750	15,500	14,944	+556
営業利益	△140	△30	△170	△444	+274
経常利益	△140	△130	△270	△455	+185
当期純利益	△150	△150	△300	△673	+373

想定為替レート：USD=100円

3. 今後の展望について

原材料価格の影響

- 為替の上昇に遅行して原燃料価格も上昇
- 原燃料価格は、足元は高止まり



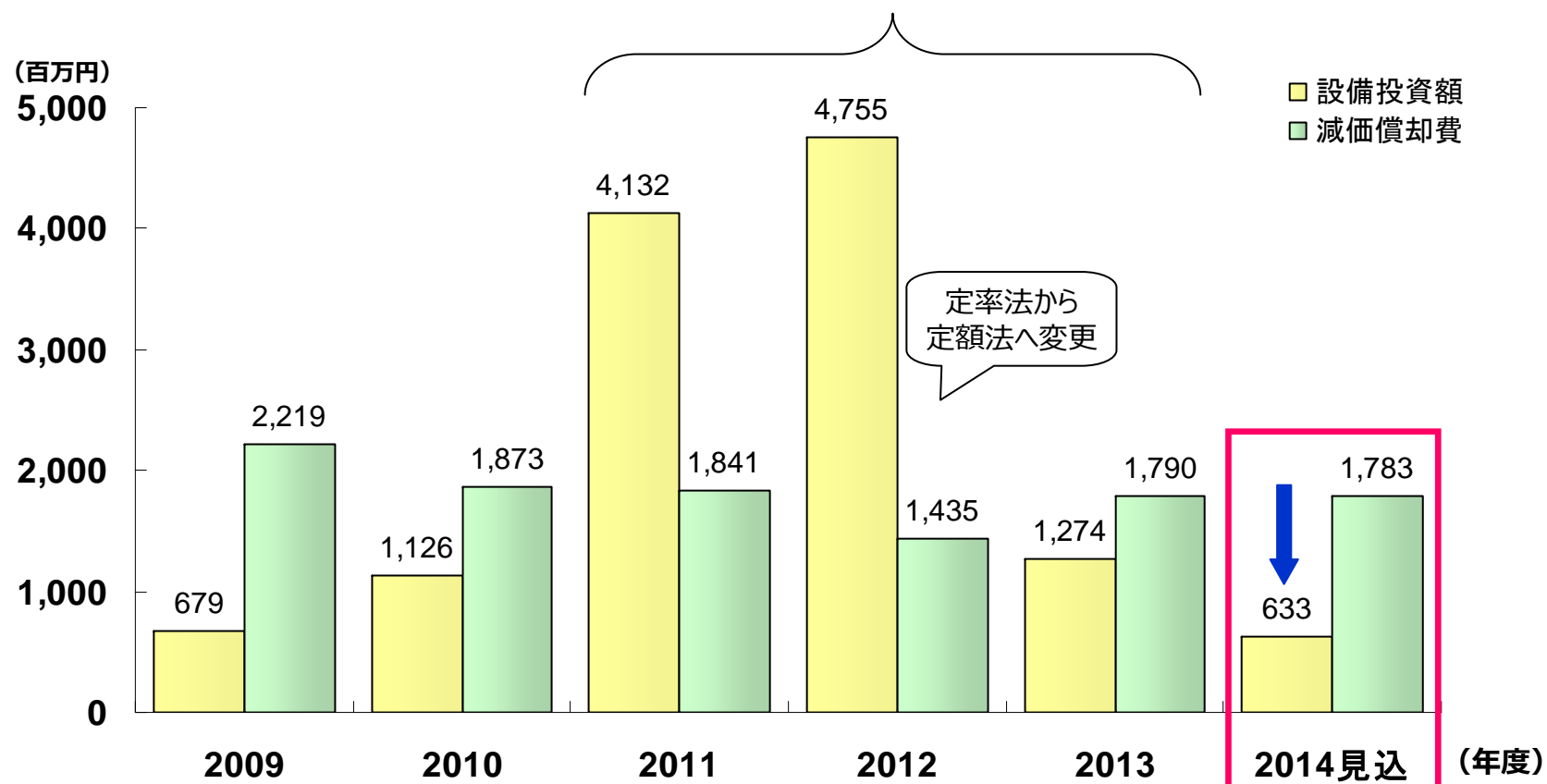
出典：(為替) 三菱東京UFJ銀行
 (国内A重油) 一般財団法人日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
 (国産ナフサ) 基礎原料統計

設備投資と減価償却費の推移および計画

- 大型投資は2014.3期で完了
- 今期の設備投資は償却費の範囲内で計画
(投資6億円 < 償却費18億円)
- 減価償却費は前期に比べ微減

(過去3期の主な投資)

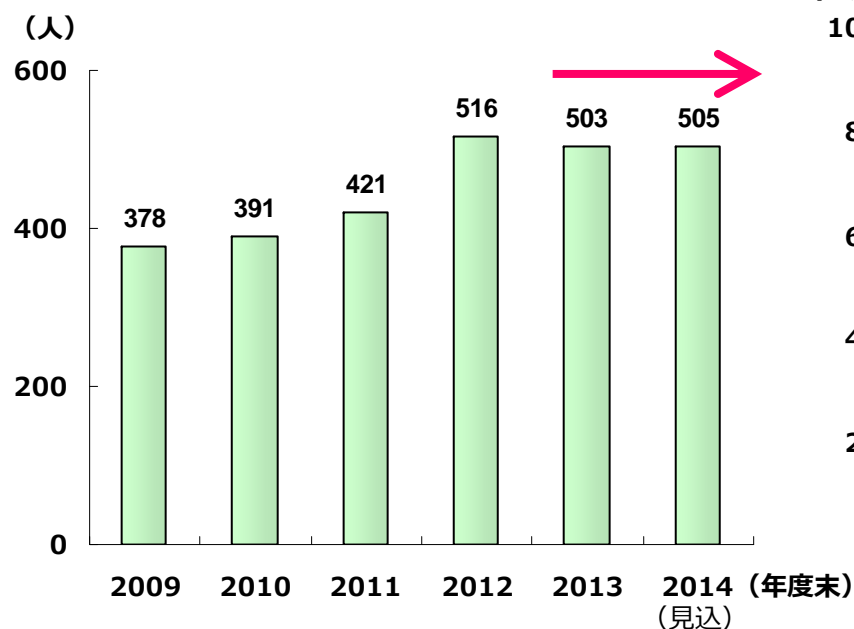
• 香料工場建設	33億円
• 感光材設備増設	13億円
• 淡路工場建設	21億円
合計	67億円



人件費/研究開発費

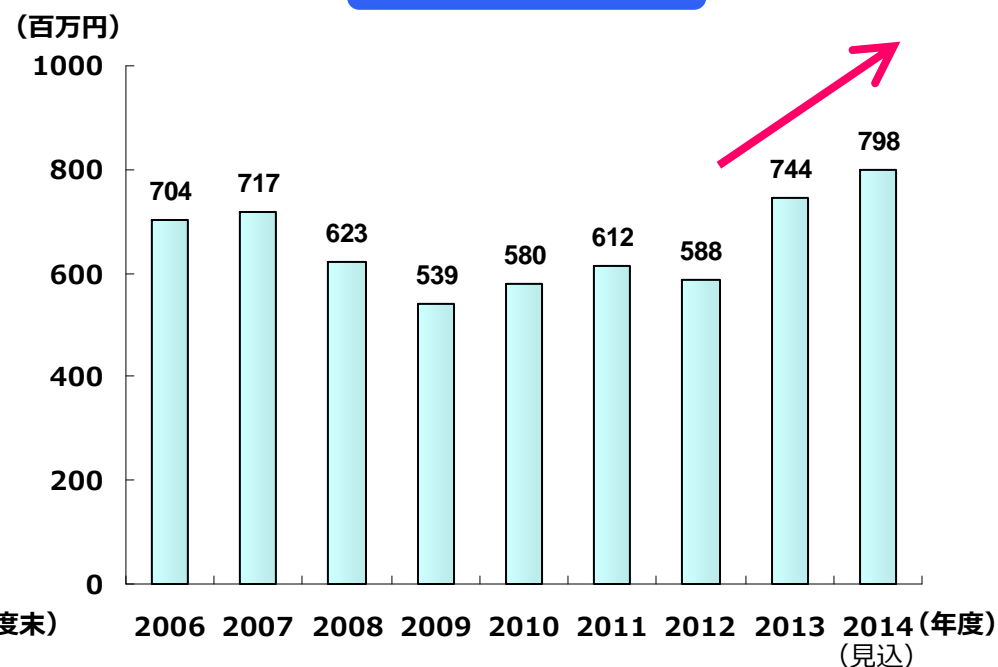
- 事業拡大に伴う技術系および生産系の人員整備は完了
- 総人件費は現状を維持しつつ、研究開発シフトを加速
- 競争力強化のため研究開発は加速

従業員数



総人件費は現状維持

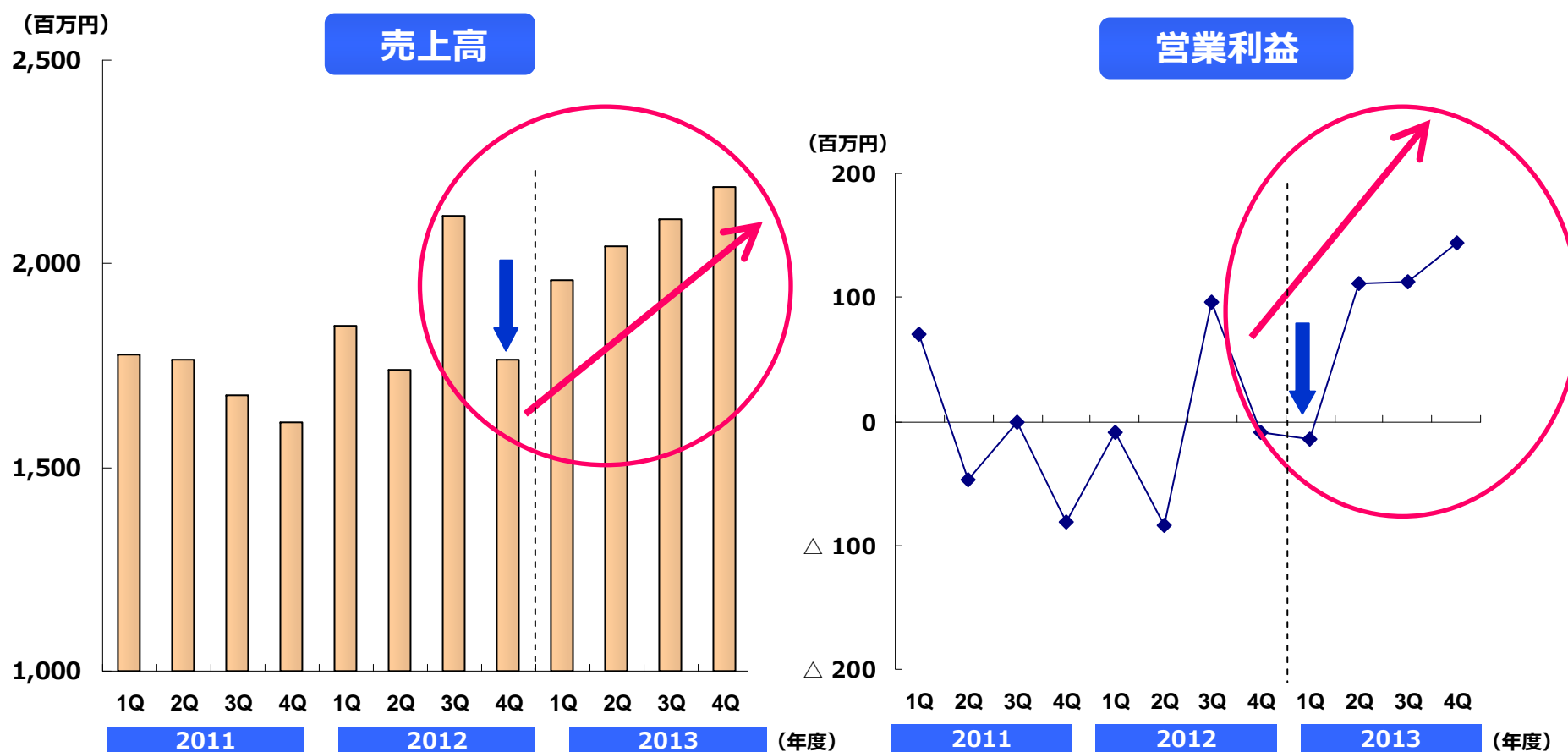
研究開発費



研究開発により高付加価値製品の創出を目論む

感光性材料事業全体の状況

- 半導体需要の拡大、FPDパネル市場の拡大に伴い、
2013.3期4Qをボトムに売上高・営業利益ともに回復



感光性材料事業 感光材部門

- 半導体の微細加工技術と3次元化が進化し、20nmレベルまで量産化
 - 現在はArFの技術を改良し、微細化を進めている段階（当社注力領域 DPからMPへ）
- これら状況により、開発需要が旺盛

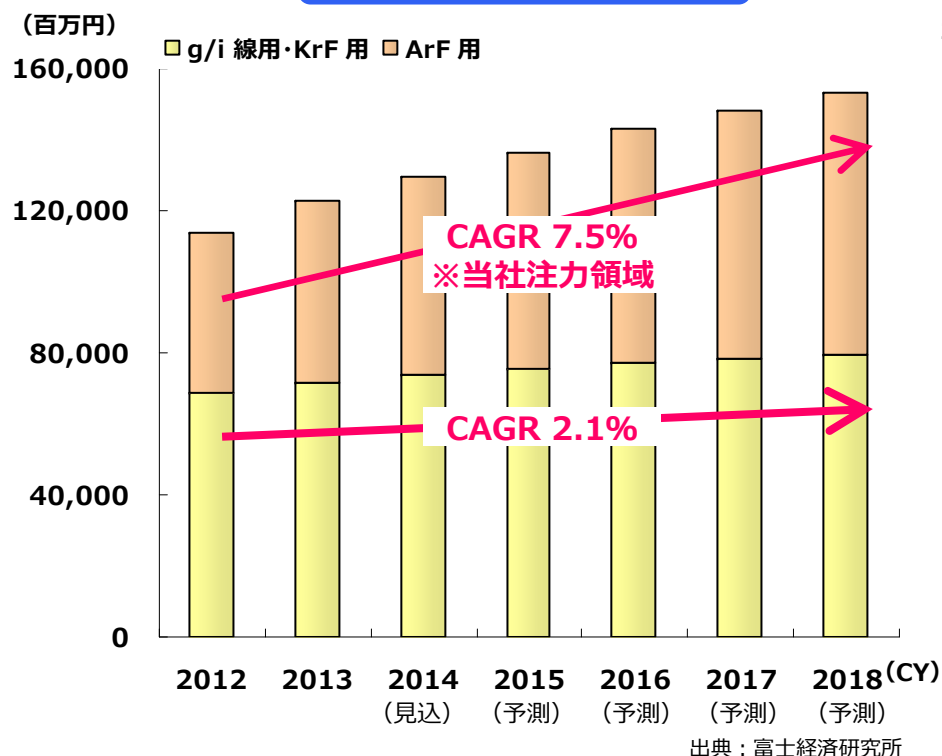
	LCDパネル用		半導体用						
	g + h + i 線	i 線	g 線	i 線	KrF		ArF		EUV
							液浸	ダブル パターニング	
線幅	~2,000nm	~1,000nm	~700nm	~200nm	~110nm	~65nm	~45nm	~22nm	~16nm
用途	テレビ用、 一般用	先端中小型 パネル	IGBT、LCDドライバ、LED		DRAM / NAND FLASH メモリ				次世代ロジックLSI
			先端ロジックLSI						
市場	新興国の 需要増	スマートフォン タブレットによる 拡大	緩やかに縮小	拡大	やや拡大	横ばい	量産化 急拡大		プロトタイプ [○] 露光機 販売中 材料開発中

← 当社製品・研究開発のアプローチ範囲 →

感光性材料事業 感光材部門

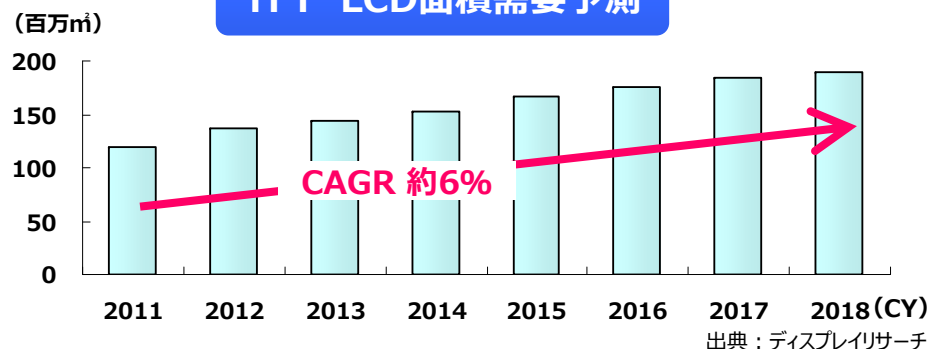
- 先端半導体レジスト需要は、ArF世代の延長に伴い拡大。先端品の開発需要も拡大
- 台湾・韓国・中国におけるFPD生産拡大により、成長が続く
- FPD向け感光材はタッチパネル需要の拡大に伴い高純度感光材のニーズが顕著化

半導体レジスト需要予測

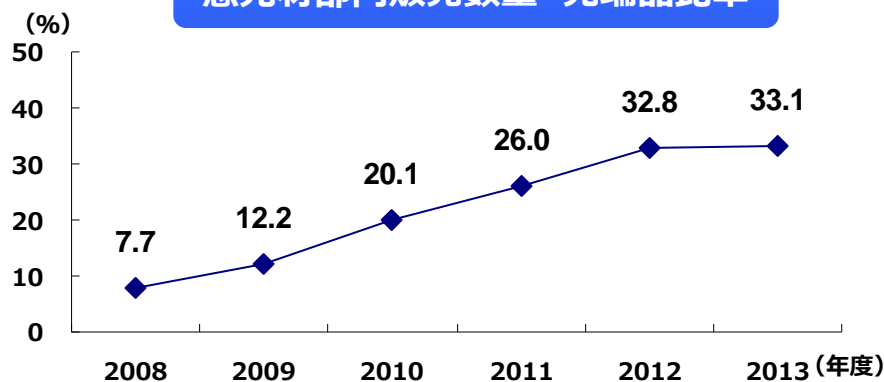


感光材は、半導体・液晶向け共に安定的な成長を見込み、
今後は特に先端品に注力している

TFT LCD面積需要予測



感光材部門販売数量 先端品比率

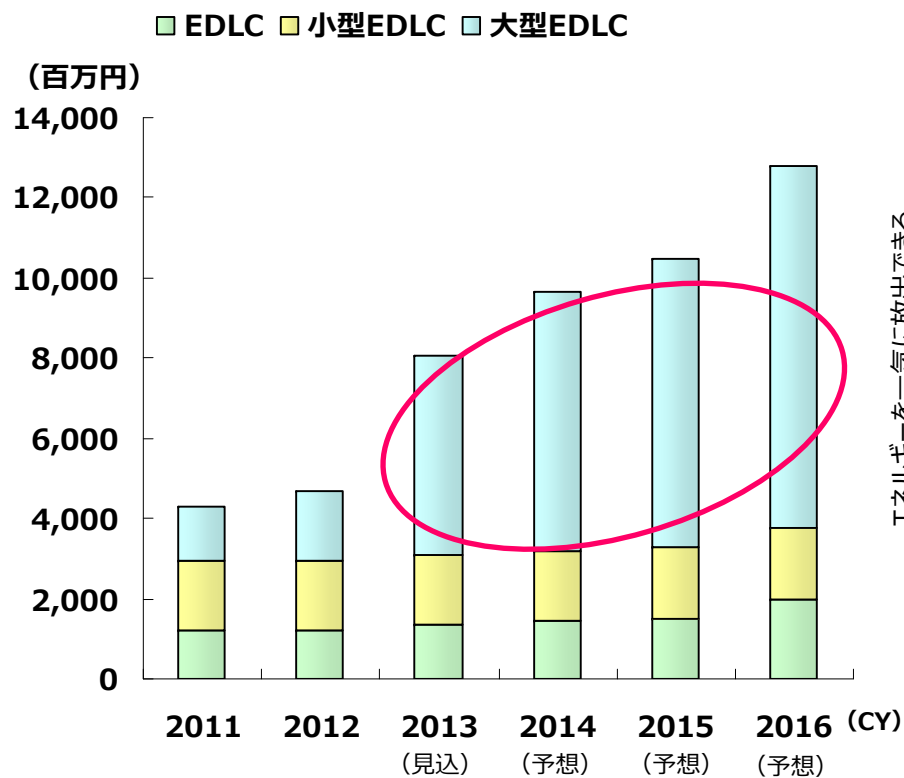


先端品比率は横ばいとなっているが、アプリケーションの伸展に伴い、既存品・先端品の売上・量が拡大

感光性材料事業 エネルギー部門

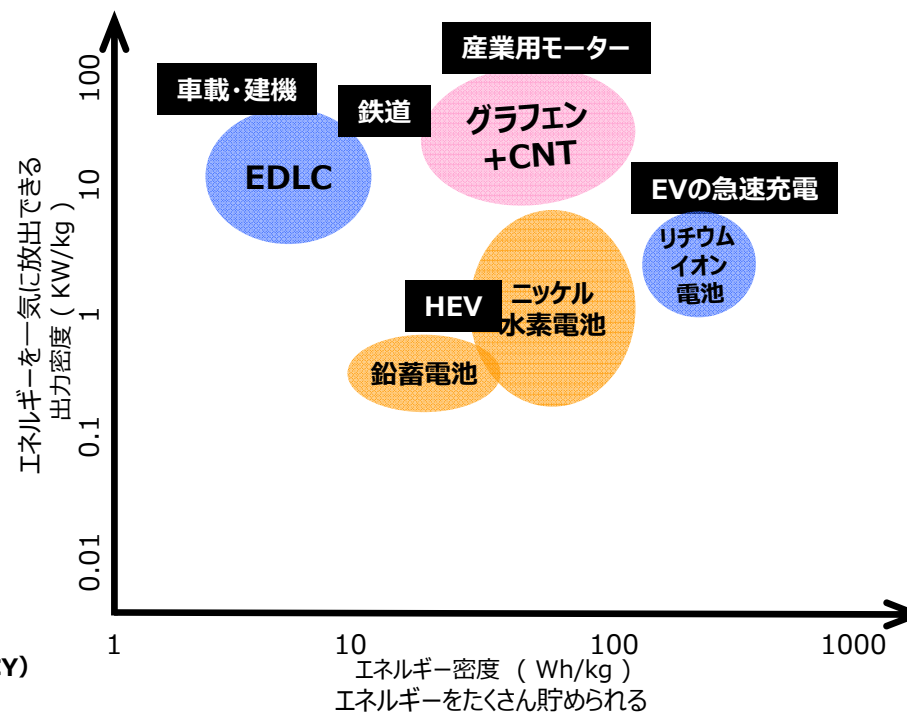
- EDLC用電解液の市場規模は今後拡大する見通し
- 次世代・最新デバイス向けの材料開発に注力
⇒次世代電池技術の市場開拓へ

EDLC用電解液の市場規模予測



出典：富士経済研究所

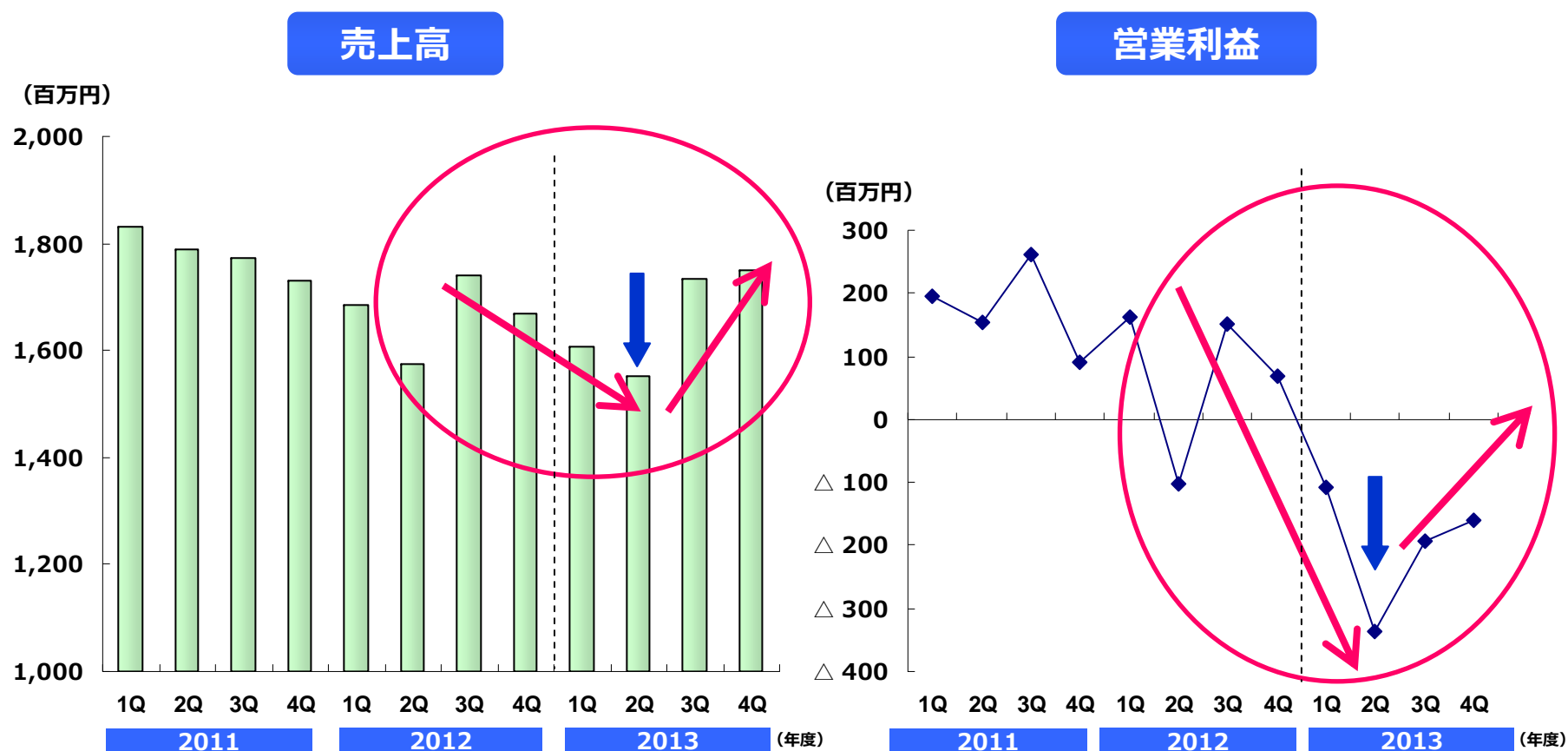
蓄電デバイス性能一覧



出典：各種資料より当社作成

化成品事業全体の状況

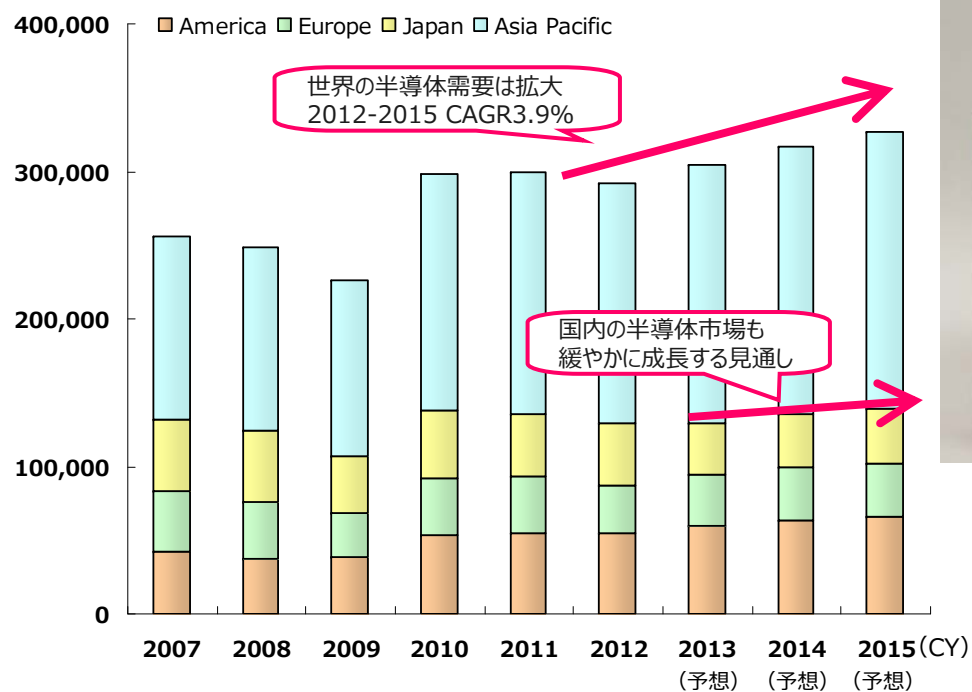
- 2013年度2Qをボトムに売上が拡大
- 利益面においては、香料工場（2012年度下期）・淡路工場（2013年度上期）の竣工に伴う固定費増により急速に収益が悪化したものの、2013年度2Qをボトムに足元は回復傾向



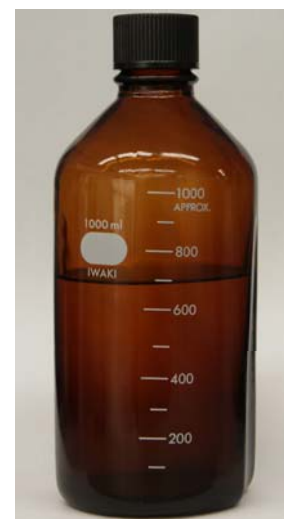
化成事業 グリーンケミカル部門

- 昨年度の淡路工場は、リチウムイオン電池向け溶剤を中心に、各社のトライアルを実施
- 今年度は本格的な生産を開始。さらに他需要の取り込みも積極的に展開

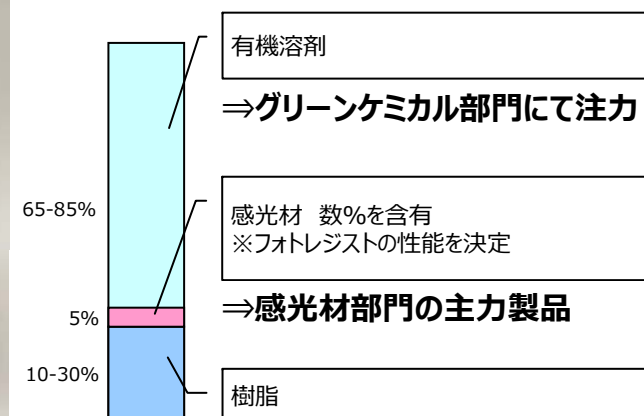
半導体市場予測



出典：World Semiconductor Trade Statistics（世界半導体市場統計）



フォトレジストと構成内容



有機溶剤

⇒グリーンケミカル部門にて注力

感光材 数%を含有
※フォトレジストの性能を決定

⇒感光材部門の主力製品

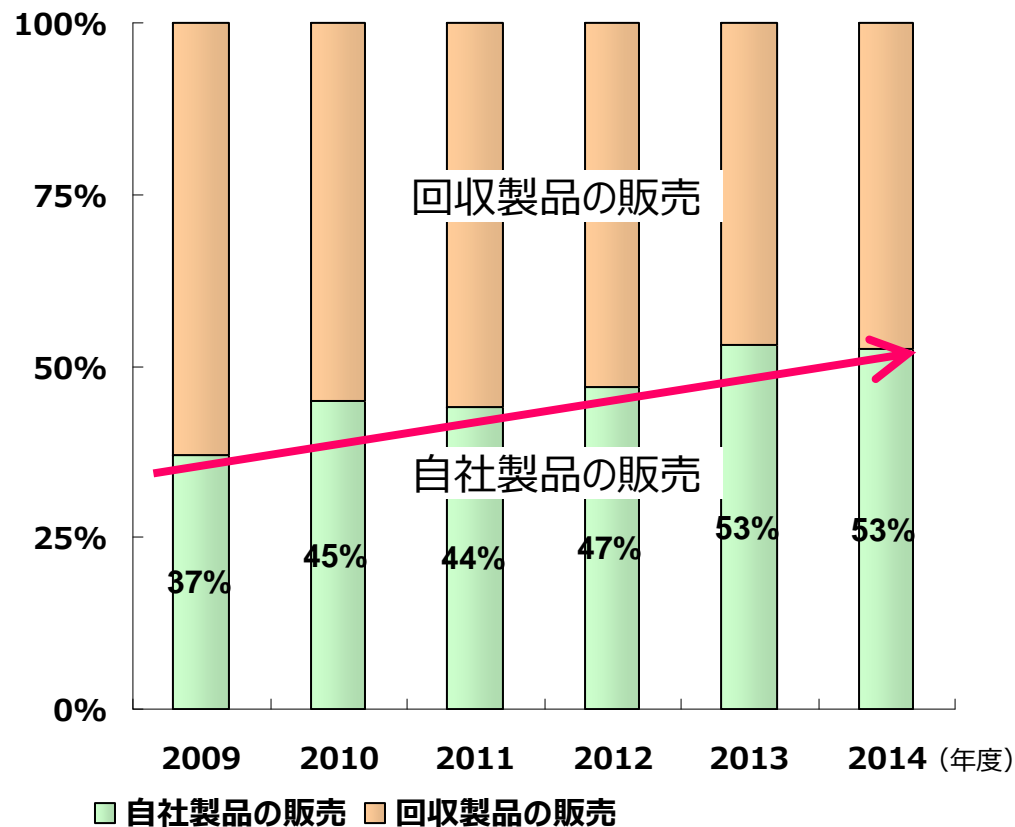
樹脂

感光材で培った高純度化技術ノウハウを
グリーンケミカル部門にて活用

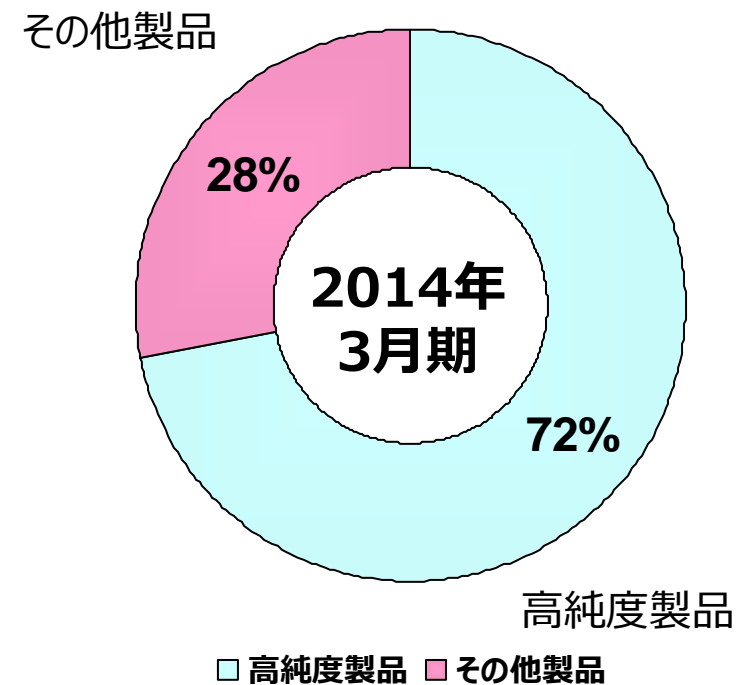
化成品事業 グリーンケミカル部門

- 自社高純度溶剤の販売比率が上昇
- グリーンケミカル部門では、より高い品質が求められる高純度製品にシフト

自社製品の売上高比率



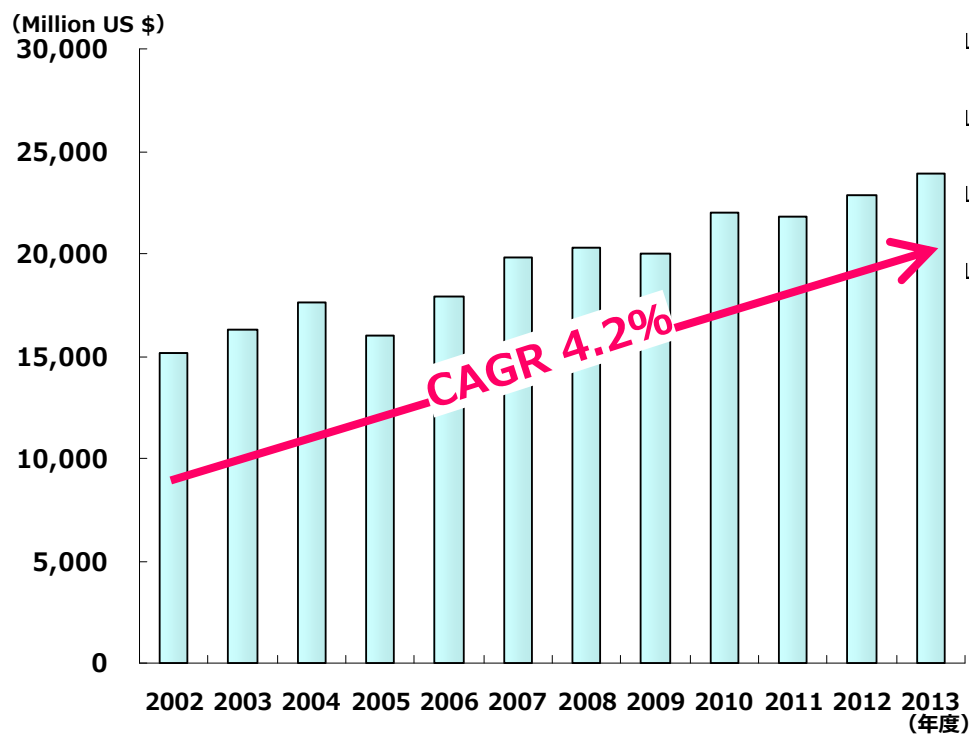
高純度製品 売上比率



化成事業 香料材料部門

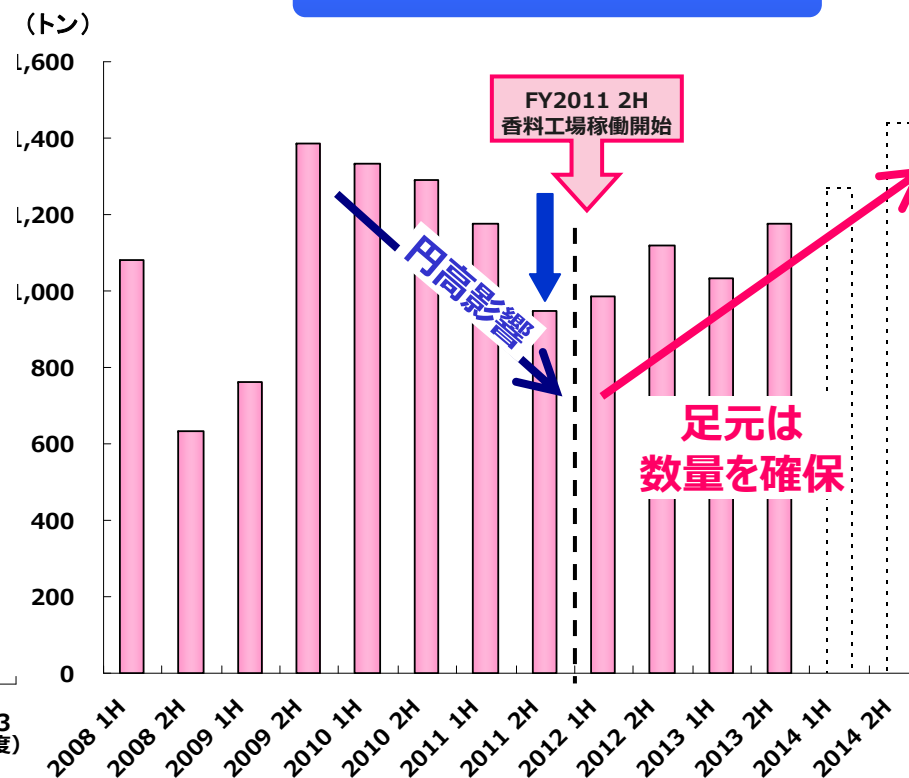
- 香料の市場規模は新興国の経済成長が牽引し、平均4%台で伸長
- 直近では円安傾向の定着により、数量を確保し、回復傾向

世界の香料市場の推移



香料市場の規模（ドルベース）は平均4%台で成長
BRICsおよびASEANの経済成長が牽引。

香料工場 生産数量の推移



円高の影響を受け、売上減少したものの、足元は
数量を確保。円安を追い風に売上回復を狙う

化成品事業 ロジスティック部門

高い参入障壁と好立地条件

参入障壁

- ・東京湾岸での新規参入は、消防法規制による高いハードルがあり、困難

立地優位性

- ・東京湾岸に立地し、高速出入口にも近接
- ・好立地と抜群の交通アクセス
- ・外環道の開通※により優位性がさらに向上



サービスの差別化

出典：各種資料より当社作成
※三郷南IC-高谷JCT間 2017年度開通目標

充実した設備

- ・多様な受入形態・保管施設を有し、充実した受払サービスを提供

高付加価値サービス

- ・ファインケミカル事業で培ったノウハウを活かし、品質管理に強み

東京湾内の需給タイト化

大手ターミナルの閉鎖

- ・東京湾内で約10万kl（ケミカル以外を含む）を誇るターミナルが閉鎖を発表
- ・東南アジア・中国における石油化学プラント建設増加により輸入品増加、タンク需要増加



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

 東洋合成工業株式会社



60th Anniversary

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。
